

セカンドカーにいいんじゃない!
プジョーSWという
選択

206SW / 307SW / 407SW

Text / Mizuho Moriyama [森山みづほ] Photo / Takayoshi Matsumoto [松本高好]

オナタイムはスーツに合わせる革靴、海へ行く時はサンダル、
そして家族や恋人と食事やショッピングに出かける際はオールマイティに使えるローファー……。
クルマも靴のようにチョイスしたいものですね。
プジョーSWって、履き心地のいいローファーみたいな感じかな。
いろんなシーンで便利にカッコよく使えそう。
こんなセカンドカーがあると生活がぐっと上質になりそうです。





206SW



206SWは02年に上陸を果たしたプジョーで最もコンパクトなSWだ。フロント部分の基本コンポーネントをハッチバックモデルと共有しながらリアのオーバーハングを拡大して荷室容量を稼ぎ出している。試乗車は1.6ℓ直4エンジンを搭載するXSの4段AT仕様。全長4030×全幅1675×全高1475mm。車両協力=PEUGEOT大田(04年式・206SW XS・走行4.2万km・価格155万円・インダッシュナビ付き)Tel.03-5744-7871



307SW



02年8月に導入された307SW。当初は2.0ℓ直4エンジン搭載のSW 2.0のみの設定だったが、今年の5月に1.6ℓ直4(108ps/15.0mkg)のSW 1.6が追加されている。試乗車は後者のSW。スタイリッシュなボディ・デザインと明るく開放的な室内を演出するパノラミックガラスルーフが特徴だ。2.0が3列シートの7座、1.6は2列シートの5人乗りとなる。全長4420×全幅1760×全高1585mmのスリーサイズ。車両協力=PEUGEOT JAPON

407SW



05年の春に上陸を開始した407SW。パワーユニットは2.2ℓ直4(158ps/22.1mkg)と3ℓV6(210ps/29.5mkg)の2種が用意されている。組み合わされるトランスミッションは前者が4段AT、後者は6段AT。すべてのSWには、AV "HDD"ナビゲーションシステムやパノラミックガラスルーフなどの装備が標準となる。全長4775×全幅1840×全高1510mm。試乗車は407SWスポーツ2.2。車両協力=PEUGEOT JAPON



『セカンドカー』という存在。人によっては趣味を広げるためのアイテムであったり、生活必需品であったり、はたまた家庭円満のために外せないものだったりするのかもしれない。

でもどんな理由にせよ、もう1台所有できる悦びというのは、クルマ好きにとってはたまらないものもあり、だからこそセカンドカー選びは意外と難しかったりもする。

速さで攻めるか?使い勝手を求めるか?ファッション性でキメるか……、キーポイントは色々あるけれど、様々な要素をバランスよく兼ね備えているモデルといい。そんなクルマがプジョーのSWだったりする。

え~、ステーションワゴンじゃん~!という声も聞こえてきそうだけど、SWというクルマは、いろんな部分が既存のステーションワゴンとは違っている。

ちなみにこの“SW”という言葉に定義は無い。スペースワゴン、スポーツワゴン、スーパー

ワゴン……などなど、見る人、使う人が抱く印象で解釈は異なるのだろう。確かに実際に見てみると、プジョーらしいエレガントさとスポーティさがほどよくミックスされていて、国産車のような所帯臭さは微塵も感じない。ジーンズだけど、作業着っぽくは見えないお洒落な着こなしができる。そんな存在なのだ。

家族で乗りたい307SW

基本的にはステーションワゴンでありながらも、プジョーらしい流麗なスタイルがキープされ、走りも適度な軽快感と快適性を持っている見逃せないモデル、それが307SW。

さらにルーフの大半は、パノラミックガラスルーフと呼ばれるラミネートガラス製になっているため、他のクルマでは味わえない開放感も楽しめる。中古車価格はやはり1.6が若干安めで推移しているようだから、どちらを選択するかは大いに悩むところ。



座る人たちにとってはかなり気持ちいいらしく、子供をはじめとした家族ウケは最高。実際、試乗用の307SWに乗ってしまった我が子は、いまだに「あのガラスのクルマに乗りたい」と言っているほど。小さな子供がいる家族にオススメしたいモデルのひとつである。

試乗車は軽快タイプ(乗車定員は5名)の307SW 1.6だが、2.0は3列シートが標準で7人乗りとなる。中古車価格はやはり1.6が若干安めで推移しているようだから、どちらを選択するかは大いに悩むところ。

購入の時は両モデルに試乗してみたほうがいいかもしない。もちろんファミリーで……。とりあえず奥さんがミニバン的な使い方を求めているのなら2.0にしておいたほうがいいし、日常使いに割り切るのなら1.6で充分だと思う。

奥さんの機嫌が良くなる206SW

家族と言えば、クルマ選びで大いに頭を悩ませるのは女性陣の意見かもしれない。そこで、普段の日は主に奥さんが使うという方にお勧めしたいのが206SW。

ボディサイズが大きいのはダメ、でもお洒落で使い勝手が良くて、しかも輸入車と言えどもコストパフォーマンスがよくて……、などと理想の高い女心にグサッとくるクルマなのだ。小さくてもスタイリッシュで存在感がある小粋なクルマに女性は弱い。

クイックなステアリングフィールや、トルキーな

加速感を求めるご主人には物足りないと感じるモデルかもしれない。けれど、スポーティな走りはファーストカーで楽しめばいいこと。普段の足に使うセカンドカーは、使い勝手と気持ちいいドライブフィーリングが重要ポイントになったりする。

クルマ好きなら、そんな賢い使い分けが自然にできると思うし、かかる経費も無駄とは考えないはず。円満な夫婦関係も構築できたりするしね。

206SW、特に都市部に暮らすファミリーの優秀な“月～金グルマ”になるモデルだと思う。こんなのが1台あるとホント便利!

オールマイティに使える407SW

そして、最後に試乗したのが407SW。ご存知のように昨年の春、セダンとともに上陸した新世代プジョーを象徴するミドルクラスのステーションワゴンだ。

スタイルやインテリアから漂う高級感。また

廉価グレードの搭載する2.2ℓユニットでも充分に余裕のある動力性能。さらに、もれなくプジョー伝統のしなやかなサスペンションがもたらす快適な乗り心地がついてくる。

近所のスーパーマーケットからお洒落をして出かけるシティホテルのレストラン、はたまたキャンプにまでオールマイティに使えるクルマとはまさにこんなクルマのこと。407SWを購入してしまうと、ファーストカーのキーを握る機会がぐっと少なくなるはず。

だから、ファーストカーには2座のオープンスポーツなんてモデルを家族に遠慮することなく選ぶことができる。

そうそう、407SWにはすべてのモデルにパノラミックガラスルーフが装着されている。これはポイントが高い! 室内がグーンと明るくなるし、何といっても子供の笑顔は何ものにも代え難いものだと思うから……。